

多くの人に厚木の良さを伝えたい

秋元 毅さん(44・林) 農園経営者

地元企業と協力し、飯山の農園で月に1回野菜や菓子、雑貨などを販売する「マルシェ」を開催しています。この場所に一年中人が来てほしい、良い物を作る農家をもっと知ってほしい思いから昨年11月に始めました。初め1日800人ほどだった来場者は、今では約2600人。市内だけでなく市外・県外から訪れる人もいます。物を販売するだけでなく、出店者と来場者や来場者同士が顔を合わせ、新しいつながりが持てる場になっています。私自身は20代の頃に横浜市から移住しましたが、自然豊かな厚木の良さにまだ気付いていない人も多いのではないのでしょうか。多くの人にその魅力を知ってもらうため、これからもマルシェを続けたいと思います。



新しい地でのつながりを生かして

村田 真梨子 さん (32・関口) 飲食業

2019年に、結婚を機に。来てすぐ地域情報を発信する活動を、しと出会いました。以前から食に関わり、今は厚木発のクラブハーツなどの材料は、角を借りて栽培。開発でつながりができ、もらいました。厚木にわができたことで、



特集 #niceatsugiと地方創生

このまちで暮らす

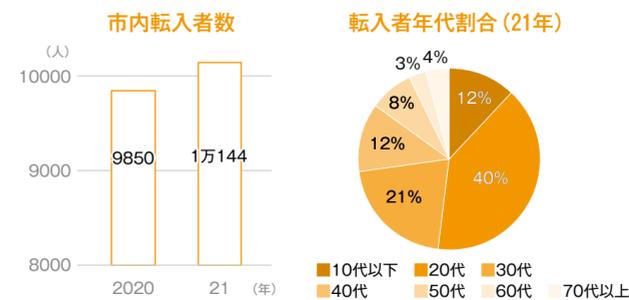
住みたい・住み続けたいまちであり続けるため、市では魅力発信や転入・定住に向けた支援に取り組んでいます。そんな中、厚木を選び、移り住んだ方たちに、このまちでの生活や思いを聞きました。



地方創生Q&A

- Q.「地方創生」って何？
- A.全国的な出生率の低下や人口一極集中を是正し、人口減少を和らげる取り組みです。
- Q.なぜ地方の人口増加が必要？
- A.地方の人口が減ると商業施設や医療機関、公共交通などが経営を維持できず、撤退せざるを得なくなります。不便さから人口が1カ所に集中すると、将来的に医療・福祉資源などが不足してしまいます。あらゆる人が不便なく暮らし続けるためには、地方が人口・経済などの活力を保ち続けることが必要です。市では2016年に「地方創生推進プロジェクト」を始動し、市の魅力発信・定住促進事業を実施しています。
- Q.一人一人にできることは？
- A.市の魅力を多くの人に共有することが、市の人口増加につながります。#niceatsugiを使って発信したり、知人に話したりすることが、気軽に行えることの一つです。

企画政策課 ☎225-2450



子育てしやすい環境へ

高際 哲朗さん(33・船子) 鉄道関連会社員

子どもが生まれたことをきっかけに今年の3月に転入しました。引っ越しを考え始めた時には、各市町村の取り組みや住まい環境などの情報を事前に調べました。私たちの生活の中心は子育てだったので、おむつ支給などの手厚い支援や、子育て支援センター、大きな公園などがあり、環境が整っている厚木市に住むことを決めました。駅前には買い物する場所もあり、電車・バスのアクセスも良いので住みやすいです。休日は家族と市内で過ごすことが多く、楽しく子育てできています。



妻の晴香さん、長男の浩都ちゃんと

こんな制度を活用！
若年世帯住宅取得支援事業補助金

移り住んだあつぎ

環境がいいから仕事も続けられる

瀬谷 侑希さん(25・寿町) 看護師

看護師として働くため、生まれ育った東北の故郷を離れました。インターネットで就職先を調べている時、「共働きで子育てしやすい街ランキング」で厚木市を日にしたのがこのまちを知ったきっかけです。インターンで他のまちにも行きましたが、都会過ぎず生活する上で必要なお店などがそろっている厚木市が一番住みやすそうと感じ、ここで働くことを決めました。住み始めて2年が経ちましたが、厚木市を選んで良かったと思っています。今は、街灯に照らされた夜の相模川沿いをゆっくりと散歩するのが楽しみです。環境がいいので休日はリフレッシュでき、仕事も充実しています。これからも長く住み続けたいです。



こんな制度を活用！
看護職等転入奨励助成金



妻の優芳さん、長男の怜太ちゃん、次男の拓海ちゃんと

こんな制度を活用！
都市農業支援センターで新規就農相談

離れて実感したこのまちの良さ

新井 貴之さん(38・岡田) 高校教師

2年半前に地元へ戻ってきました。共働きで子育てと仕事を両立するため、親にサポートしてもらえよう実家の近くに移り住みました。すでに市外で住宅を購入していたので、引っ越しは悩みましたが、環境や子育て支援が良かったのと、住宅取得費用の補助が後押しになりました。親も孫にすぐ会えるようになり喜んでます。厚木市は鮎まつりやジャズナイト、大道芸などイベントが多く、家族で参加するのが楽しみです。こうしたまちのにぎわいも暮らしやすさにつながっていると思います。一度、市外に離れたからこそ、このまちの良さを再認識できました。

こんな制度を活用！
親元近居・同居住宅取得等支援事業補助金

安心して住める第二のふるさと

岡本 秀夫さん(86・金田) 県人会会長

30代の頃、仕事の転勤で故郷の福岡県から関東に来ました。渋谷や相模原などを経て、厚木で暮らし始めたのは1983年からです。ここに住むのを決めたのは妻です。当時、渋滞が多いと聞いていた私は乗り気ではありませんでしたが、住んでみると山や川などの自然が近くにある良いまちだと分かり、今では妻に感謝しています。40年ほどここにはいますが、大きな災害もなく安心して暮らせることが魅力で、故郷にいる兄弟や市外から訪れた人にもそう伝えていきます。

4月から、同郷の人で集まり交流や親睦を深める全国県人会連合会の会長を務め、市のイベントなどにも積極的に参加しています。日本各地から来た者同士でつながり、第二のふるさととして長く住むこのまちのためにできることを続けられるよう、健康で充実した日々を送りたいと思っています。



住みやすくあるために

- 子育て 紙おむつ 紙おむつ 子ども医療費助成 卒業までの子どもを対象に、健康保険適用医療費負担額を助成 ☎子育て給付課 ☎225-2230
- 労働 看護職等 看護職・《助成額》 農業支援 都市農業 鳥獣被害 転入奨励助成金 歯科衛生士などの方に転入費用の一部を助成 転入費用20万円 ☎健康長寿推進課 ☎225-2174
- 業支援センターによる新規就農や農地の有効利用、対策などの相談 ☎都市農業支援センター ☎221-5511

市では暮らしやすいまちを目指し、子育て・定住・労働などさまざまな支援に取り組む、その内容を市HPでお知らせしています。

- 定住 親元近居・同居住宅取得等支援事業補助金 市外に1年以上居住の子世帯が、市内に1年以上住む親世帯と近居・同居を始める際に、住宅取得・改修費用の一部を補助 《補助額》住宅取得・近居は40万円、同居は60万円。住宅改修は経費の10分の1(上限20万円)。いずれも加算あり
- 若年世帯住宅取得支援事業補助金 転入または市内に居住する子育て中の若年世帯が住宅を新築・購入する場合に取得費用の一部を補助 《補助額》20万円(加算あり) ☎住宅課 ☎225-2330

厚木市 移住・定住

厚木で暮らそう 厚木市の定住ポイント

その他支援や詳細は市HPに掲載 ▶